



あゆみ

学校だより 1 2 月号

親子で食事 親子で会話
親子で読書



校長 鈴木 学 平成25年12月24日

睦小の自慢・親子読書(家読) 感想をありがとうございました

親子読書の感想をお願いして3回目になりますが、今年も素敵な感想をたくさんお寄せいただきました。お忙しい中、本当にありがとうございました。

過去2回と比べ、今回は、「親子(家族)で図書館(本屋さん)に行きました。」という記述がたくさん見られました。また、お父さんが登場するご家庭が増えたことも今回の特徴で、親子読書の益々の浸透、深まりを感じることができました。

いただいた感想の一部を紹介します。

- 寝る前の僅かな時間ですが、一緒に読みました。子供も私の声を聞くと安心して寝ることができたようで、一石二鳥でした。
- 今回夕食後にテレビを消して家族で読書に取り組みました。静かな時間の中でゆったりとした時間を過ごせたと思います。
- 夏と一緒に見た映画の本を親子で読みました。映画では分からなかった意味が理解できたところがありました。
- 静かな部屋で本を読むことはとてもいいね！と、子供たちも本を読む楽しさ、大切さを改めて感じたようでした。
- 父親が選んだ本をととても喜び、自ら読んでいました。本に興味を示す姿を見て、父親も満足し、読み聞かせを楽しそうにしていました。
- 子供が借りる本が偏っているので、親が子供の頃に夢中になって読んだ本を借りてきました。一緒に感想を言いながら楽しめました。
- テレビの音が聞こえない静かな時間を読書で過ごすのは、とてもいいと思いました。
- 「夜ご飯の前に10分間」と時間を決めて、いろいろな本を読み感想を話し合いました。
- 読書が生活の中で定着してきました。
- 1年ごとに感想が深いものになり、子供の成長を感じます。
- 一人で読むときより楽しかったと言っていました。
- 寝る前の時間を読書の時間にしました。私が疲れて眠くて読めないときは、子供が読んで聞かせてくれました。
- 子供たちが幼い頃好きだった絵本を読み返すよい機会になり、小さい頃の思い出話を楽しみました。

- 父子で同じ名作を読み、テレビやゲーム以外にも共通の話題ができて、とてもよい時間を過ごしました。
- 同じ所で同じ感想をもつことがあり、やっぱり親子だなと思いました。
- 平日10分、土日15分を目標に親子読書を続けています。
- 親子で読書をする時間を作り出すのは大変ですが、「やらねば」ということで、1冊の本を二人で交互に読んでみました。
- 本当に見たい番組以外はテレビを消しました。子どもが本を読んでいる間は、親も読むようにして静かな時間を過ごしました。

PTA(お母さん)も 読み聞かせボランティア デビュー

昨年の親子読書の感想に、「もっと読み聞かせが上手になりたい。」「ボランティアさんが、どのように読み聞かせをされているのを知りたい。」といったものがありました。このような声に応じて、2月にPTA主催の「読み聞かせサロン」が開かれました。そのとき参加された方などが誘い合って、この度「読み聞かせボランティア」としてデビューされました。

デビューの舞台は、教育相談が行われている時間の図書室です。先生と面談している児童以外は、長めの休み時間になりますので、この時間を利用して、図書室で読み聞かせをしていただきました。



- 以下は、保護者ボランティアさんの感想です。
- Aさん・・・2年生が7・8人で囲んでくれて、集中して聴いてくれました。驚いたりと、ドキドキしたりの感情がとても豊かでした。主人公の気持ちについて意見を言ったり、他の本についての話をしたりできました。笑顔がかわいかったです。
 - Bさん・・・動物の表情についての本でしたが、「ぼくはこの顔が好き」「こっちの顔の方がかわいい」など、一方的でなく、話し合いながらの読み聞かせができるのも、少人数のよさだと思いました。ページをめくるのを楽しみに待つ子どもの表情が、素直で愛らしく思えました。
 - Cさん・・・読み聞かせが終わると、2年生が、「ありがとうございました」と挨拶してくれました。その礼儀正しさにととても感激し、『読み聞かせに来てよかった』と思いました。

腕立て跳び上がり(鉄棒)で見せた 1年生のプライド

寒い季節になり、休み時間には縄跳びであそぶ子が増えてきましたが、まだまだ鉄棒を練習する子も結構います。

私が鉄棒の所に行くと、1年生が、体育の授業でやっている「腕立て跳び上がり(鉄棒を掴んでジャンプしてのる(技?))」や「足抜き回り(前・後ろ)」などを、次々に披露してくれました。

「校長先生、見て、見て！」というご要望に応えるのが大変です。逆上がりができる子はまだ少ないので、できる子は特に得意満面です。

「手にまめができちゃった。汗と手のまめは、がんばった勳章ですよ。」などと、1年生とは思えない言葉を口にする子もいます。



そんな中、A君が「腕立て跳び上がり」を私に見せようとがんばりましたが、残念ながら上がることはできませんでした。理由は簡単、鉄棒が少し高かったのです。

「悔しい!、こっちならできるから見て。」と言って、彼は鉄棒を変えることにしました。その確信をもった言葉に、私は、当然低い鉄棒に行くのだろうと思いましたが、何と彼が選んだのは、1つ横の同じ高さの鉄棒でした。結果は、やはり失敗。小さなチャレンジャーは、先ほど以上に悔しがりました。

1年生らしい判断と悔しがらかわいい仕草に、思わず笑ってしまいました。しばらくして「なぜ、彼は同じ高さの鉄棒を選んだのか?」という難しい命題が私を悩ませました。(そんな大げさなものではありませんが)

そして、いろいろ考えた末に、それは彼のプライドによるものだという結論に達しました。よく考えると「腕立て跳び上がり」は、高い鉄棒でできてこそ意味があります。ジャンプする必要がないような低い鉄棒でできても自慢にはなりません。そのことが分かっていたので、彼は同じ高さの鉄棒にあえて再挑戦したのではないのでしょうか。

子どもの気持ち(プライド)を大人の視点から理解することの難しさ、そして大切さを改めて感じました。

運動以外のいろいろな場面でも「先生、見て!見て!!」という子どもたちの声であふれる学校であって欲しい、そんなことも思いました。

4年生も高学年への自覚

感染性胃腸炎の影響で、5・6年生が登校しなかった日、4年生がとてがんばっていました。

まず、登校班の先頭を少し緊張気味に歩く姿が多く見られました。班長としての責任を感じていたようです。

学校に着くと、ランドセルを体育館の入り口に置き、リサイクルの手伝いをしてくれる子や高学年の先生と一緒に、慣れない箒を使って一生懸命落ち葉を掃く子の姿がありました。そして、他の4年生が登校して来る度に、「一緒にやろう!」とクラスに関係なく声をかけます。その結果、どんどんボランティアの人数が増えていきました。

「ありがとう。」「えらいね。」と、たくさんの先生に声をかけてもらい、どの子も本当によい表情をしていました。



普段の5・6年生の行動をよく見ていて、『今日は、4年生が頑張らなくては』と、自分たちで考えた行動がとれたことに心より感心しました。もう立派な高学年です。

冬休みは、親子で〇〇 自分で△△

親子読書の感想の中に、「親子で違う感想をもって、それを話し合うのがおもしろかった」や「同じところで同じ感想をもったので、やはり親子だなと思った」といったものなどがあり、楽しく読ませていただきました。

冬休みは他の長期休業に比べ、親子一緒に時間がぐんと多くなります。ぜひ、家族での楽しい時間をお過ごしください。そして、その中に親子読書の時間も少し入れていただけると嬉しいです。

でも、自分でできることは、甘やかさずに自分でやらせてください。例えば、早寝・早起き・朝ご飯も、『寝るときは自分でベッドメイキングをする、朝は自分で起きる、朝ご飯の食器の用意、片付けは自分でやる』など、一歩進んだ形にしてみたいかどうでしょうか。※よいお年をお迎えください。